

# 業務実施委員会報告

技術部業務実施委員会委員長

奥林 豊保

業務実施委員会は「大分大学工学部技術部業務実施委員会規程」により位置付けられ、技術部の業務の総括、実施状況の把握、また円滑な業務の遂行など業務運営に関する事項について審議、実施すると謳われています。

委員は総括技術長、技術長 4 名、副技術長 3 名、班長 7 名の計 15 名の技術職員で構成され、平成 19 年度の委員会はほぼ月 1 回のペースで、合計 11 回開催された。

本委員会では業務実施委員会の規程に沿って、技術部に関する諸問題について活発な議論を戦わせてきました。その中で、組織とは？そのあり方とは？予算(活動費)は？など多くの問題が浮き彫りになり、現実と理想の狭間で揺れ動いた 1 年でもあったと思います。

これまで技術職員は各学科の講座やセンター等に所属し、採用以来ほぼ同じ職場での業務に専念してきた経緯があり、自らが外部に向けて情報発信する機会は限られ、異なる学科の技術職員同士では意思の疎通も希薄になりがちでした。また、組織という枠組みについてもほとんど意識する必要もなく過ごしてきたのが実情であると思われます。しかし、国立大学の法人化や今回の技術部の組織化などを境に学内における技術職員の置かれた立場や役割についても自らが考え、行動に責任を持つことがこれからは必要になってきました。

この委員会においても技術職員を取りまく様々な問題について議論し、それらについて技術部として一定の結論を導き出し、試行錯誤を繰り返しながら実行するという事がいかにエネルギーを費やすかを実感しています。発足間もない組織ですが、技術部として様々な活動を行ってきました。この 1 年間の成果としては、長期および短期業務依頼体制の確立、技術部ホームページの公開、学内イベントや技術研究会の参加等々いろいろありますが、これらの活動の詳細については各 WG の報告に委ねたいと思います。

今後の方向性としては、これまで議論を進めてきた様々な事柄について、可能なものから順次実行に移し、また、新たに地域貢献などの課題に取り組むことで、活動の場を徐々に広げていく必要があると思っています。組織化されたとは言え、技術部として予算、人事、評価等への関与も未だ不十分で、この先避けて通れない問題であり、これらについても解決へ向けて議論を進める必要があると認識しています。

組織化後においても各技術職員の配置は旧来のままであり、長期依頼業務先(これまで所属していた各講座やセンター)に常駐しているのが実態です。これは通常の業務に対して即座に対応できるという大きな利点を有していますが、外部からは組織としての技術部や個々の技術職員の姿が見えにくいのも事実です。さらに、講座等旧来の組織への帰属意識も依然として残っており、技術職員の中にも温度差が感じられ、これらの意識改革も時間をかけて進めていかなければなりません。また、臨時的な業務である短期業務支援や WG 活動については、特定の職員に負荷が偏る傾向も若干見受けられ、このような問題をどのような形で解消するかも大きな課題であると思います。

これまで述べたように技術部には解決すべき多くの問題が山積していますが、技術職員一人ひとりが自分たちの組織であるという自覚を持ち、直面した事柄を一つ一つ解決しながら着実に帆を進めて行かなければならないと思っています。